

令和2年度 学校評価報告書【国立市国立第六小学校】

学校教育目標	よく考える子 なかよく助け合う子 元気でたくましい子	重点目標	よく考える子
--------	----------------------------	------	--------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
よく考える子	着児童の基礎的・基本的学力の定	教員間の共通認識の構築	算数科の研究授業を年間6回（各学年）実施し、講師の指導を授業に生かす。	教員自己評価の回答 「各教科のねらいを達成できた。」 達成できた：A 概ね達成できた：B 達成できなかった：C	/	B	研究授業や協議会を通して、算数科の指導について共通認識ができた。児童の姿や変容を手掛かりに授業改善を図っていく。	研究授業だけでなく、普段の授業を観察し合い、検証をしていく。	コロナ禍の中で、各学年が研究授業を行い校内研究を進められたことはとても意義のあることである。今後も継続して、授業研究を進めてほしい。
		基礎学力の定着	朝学習の時間を中心に、東京ベーシック・ドリルを計画的に実施することで、既習事項の見直しをする。	算数の東京ベーシック・ドリル（診断シート）の結果 習得の割合[平均正答率] 70%以上：A 60%以上：B 60%未満：C	/	B	年度前半は、活用する場が少なく、実施が不十分なところがあったが、診断結果を活用し、苦手な単元を補充することができた。児童の実態に応じて計画的に行うことが必要である。	基礎・基本の定着を図るためにも、計画的に実施し、結果を分析していく。	学校が再開した当初は、やらされて学ぶ姿勢であったが、徐々に自主性が見られるようになってきている。楽しく学ぶことが基礎基本の定着にもつながる。何のために学ぶのかも伝えていってほしい。
		読書活動に対する意欲の向上	読書活動の充実を図る。（朝読書・読み聞かせ・読書旬間・おすすめの本の紹介・お話し会）	児童への読書アンケート 「読書が好き」と回答した児童の割合 90%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	/	A	読書が好きであると答える児童が多かった。休み時間を活用し、借りる本の冊数増えたが、限られた分野のものに留まってしまいう傾向にある。	委員会や教員から、幅広く興味をもてるような働きかけを考える。	自分で本を読むことが苦手だったり、読めなかつたりしても、読み聞かせなどで本に親しむことができる子もいる。今後も色々な方法で本に興味をもつ工夫をしてほしい。
なかよく助け合う子	育特別充実支援豊かな心の育成	教職員間の情報共有と指導の改善	特別支援コーディネーターを中心に校内委員会や生活指導全体会の充実を図る。	学校評価（教員自己評価）の回答 「情報の共有と指導の充実が図れた」 達成できた：A 概ね達成できた：B 達成できなかった：C	/	B	毎週の校内委員会で各学年の情報交換ができた。生活指導全体会では、児童の様子や支援方法について共有でき、指導に生かすことができた。	形だけになりがちなので、各会の目的を明確にして意見交換することで指導の改善を図る。	障害を取り除くことが最善ではなく、どのように乗り越えることができるかを考え、身に付けていけるような支援の方法を今後も考え、指導に生かしてほしい。
		いじめの未然防止・早期解決	人権尊重の理念に基づき、道徳授業の充実に努め、集団の中での温かな人間関係の構築を図る。	ふれあい月間の児童への調査結果 （いじめが疑われる児童に対する対応） すべて解決：A 解決へ向けて対応中：B 未解決：C	/	B	学期3回のいじめアンケートを実施し、各学級での聞き取りを行った。思いやり週間でふわふわ言葉についての話し合い合や道徳の授業を通して思いやりの精神を培うようにした。	ふれあい月間以外でも毎週の校内委員会で情報共有をし、いじめ防止の意識を組織的に高めていく。	経験や体験を通して、友達との接し方や関わり方を学んでいくものであるが、「いじめはだめである。」と大人が教えるべきことは今後も毅然と指導していってほしい。
		環境教育の充実	地域の人材を積極的に活用し、国立の自然を生かした学習の充実を図る。	教員自己評価の回答 「外部講師や自然環境を取り入れた環境教育を計画通り実践できた。」 達成できた：A 概ね達成できた：B 達成できなかった：C	/	B	コロナ禍で外部人材を活用することが困難な面も多かったが、町探検などでは、地域の方との関わりが広がる良い機会となった。体験学習を通して知識を広げ、学びを深めることができた。	今後も、可能な限り外部人材を活用し、より専門的な分野での学びにつなげていく。	創立50周年を迎え、「矢川と共に」を掲げ、行事や学習に取組んだこの1年は大変有意義なものであった。今年度以上に地域の人材を活用し、子供たちの学びにつなげてほしい。
元気でたくましい子	心身の健康の保持増進	健やかな心と体の育成	体育的行事や体育の授業を通じて、心身の健康の保持増進を図る。	体力調査結果 （東京都と本校の体力合計点の比較） 都の合計点を上回った：A 都の合計点と同等：B 都の合計点を下回った：C 保護者へのアンケート[外部評価] （「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合） 90%以上：A 70%以上：B 70%未満：C	/	/	今年度：未実施		
					/	B	コロナ禍で感染症対策を講じた中で、実施可能な校内の取組として、縄跳び月間や長縄大会を行うことで、体力保持増進に努めた。	今年度実施できなかった取組（持久走など）も含めて、感染症対策を考えながら、工夫して実施する。	企画しても実施できないことが多かった中で、感染症対策を講じたながらも行事や取組を実施できたことがとても良かった。子供たちの元気な姿が校庭で見られてよかったと感じている。

達成状況の指標 A:100%～90% B:89.9%～70% C:69.9%～0%